



## 聖母の被昇天(ルカ 1:39-56)

天の国に固く結ばれて生きる

聖母の被昇天のお祝いを迎えました。「天の国に固く結ばれて生きる」とまとめてみたいと思います。聖母被昇天の説教の前置きの話をします。先週木曜日平日のミサで、ペトロの信仰告白の場面が朗読されていて、福見での夕方のミサ、子供向け説教をでこんな話をしました。

「ペトロは信仰を告白した後に、イエスさまから『あなたに天の国の鍵を授ける』(マタイ 16・19)と言われました。この鍵は、『あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる』(同上)となっているので、つなぐための鍵です。たとえばそれは、自転車をガードレールにつなぎとめるチェーンロックのようなものです。」そういう話をしました。

チェーンロックは、たぶん日本の発明ではなくて、海外で発明されたものです。なぜかと言うと、日本人だと、自転車に鍵がかけられていれば持ち去ることはないと考えますが、海外ではいくら自転車に鍵がかかっているでも安全ではないと考えます。より安全な方法は、自転車を持ち去られない方法、たとえばガードレールと自転車をつなぎとめることを考えるわけです。そこからチェーンロックが生まれたのでしょうか。

こういう鍵の使い方を例に、イエスさまがペトロに授けた鍵は、「人々と天の国とをつなぎとめる鍵ですよ」と説明したわけです。この話、今日の聖母被昇天に使えるのではないかなあとあとで思いました。

マリアは、生涯にわたって、御自分を神につなぎとめて人生を歩まれました。平凡な生活から、突然神の母になることを告げられ、驚いた時も、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ 1・38)と答えて、神にしっかり結び合わされることを願いました。御子イエス・キリストの出来事で理解に苦しむ時も、「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」(ルカ 2・19)のです。神と固く結ばれて生きることを忠実に守られました。

こうして、生涯にわたって、神に固く結ばれて生きることを願い、その通りに生きたマリアが、いま体も魂も天の国に結ばれているということは、本当にふさわしいことだと思います。神は、生涯ご自分に固く結ばれて生きることを願ったおとめマリアを、体も魂も天の国に引き上げてくださったのです。

福音朗読に選ばれたマリアの賛歌も、神に固く結び合わされて生きることの幸せを高らかに歌っています。身分の低いのはしためであっても、主を畏れることでしか生きることはできない人も、飢えた人も、神に固く結ばれて生きることで、この世では幅を利かせていると思われる自分に依り頼んで生きる人々がたどり着けない幸せに招かれるのです。

マリアが生涯を通して貫いた生き方は、神によって体も魂も天の栄光に上げてもらうのにふさわしい生き方でした。天に上げられたマリアは、わたしたちも同じ生き方に倣うよう招いているのです。神に判断の

基準を置いて生きること。神が喜ぶことをすることが自分の喜びと考えること、人にしてもらいたいと思うことを人にすること。これらの生き方で、わたしたちは神に固く結ばれて生きるのではないのでしょうか。

だれよりも神に固く結ばれて生きたマリアに与えられた栄誉は、わたしたちをより一層天の国へのあこがれに招きます。神に固く結ばれて生きるために、少しでいいから、神に心を上げる時間を日々保ち続けましょう。

聖母マリアの国籍は天にあります。同じようにわたしたちの国籍も天にあります。わたしたちが神に固く結ばれて生きるとき、わたしたちの国籍がどこにあるかを世に対して示すのです。神に固く結ばれて生きる知恵を、聖母の取り次ぎによって願うことにしましょう。

年間第 20 主日(マタイ 15:21-28)